

発行 環日本海学会事務局

京都府舞鶴市宇南田辺 1 番地 舞鶴市西総合会館 4 階 京都・まいづる立命館地域創造機構内 〒624-0853

電話 0773-78-1080 / FAX 0773-78-1078 / 電子メール jsrs@mirec.org / URL <http://www.mirec.org/jsrs/>

今号のヘッドライン

- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| [1 面] | 学会設立 10 周年記念事業について
「北東アジア事典」の刊行について
「環日本海学会優秀論文賞」の創設について | [3 面] | 総会・理事会・常任理事会議事
第 5 期第 3 回常任理事会報告
第 5 期第 3 回理事会報告
2007 年度会員総会報告 |
| [2 面] | 急募！韓国東北亜経済学会 2007 年年次大会報告者 | [9 面] | 会員情報 |
| [3 面] | 第 12 回学術研究大会報告 | [9 面] | 事務局からのお知らせ |

学会設立 10 周年記念事業について

「北東アジア事典」の刊行について

10 周年記念出版編集委員会

委員長 佐藤幸男 ・ 事務局長 佐渡友哲



10 周年記念出版事業編集委員会（佐藤幸男（委員長）、坂田幹男、榎谷圭司、若月章、吉田均、孔義植、堀内賢司、佐渡友哲（事務局））では、出版社対応、事典の編集、書名の検討、基金への寄付のお願いに取り組んでまいりました。

編集スケジュールが大幅に遅れ、執筆をご依頼

申し上げた会員のみならず、出版を楽しみにしていただいていた会員のみならずには大変ご迷惑をおかけしていましたが、2006 年 9 月 25 日に、「北東アジア事典—環日本海圏の政治・経済・社会・歴史・文化・環境—」として、国際書院よりようやく刊行にこぎつけることができました。

10 周年記念出版の特徴は、1)学会のこれまでの研究成果

を集大成し、多くの会員を動員する、2)北東アジア地域に関する政治、経済、文化、歴史、環境などについて解説、3)一般読者にも読みやすい地図、図表、写真入りのビジュアルな「ハンドブック／事典」、というものを目指し、編集を進めてまいりました。執筆に当たっては、学会内外から 109 名の執筆者のご協力いただきました。

また、執筆・編集と並行して会員のみなさまにご協力を呼びかけてまいりました出版記念基金につきましても、102 名・1 団体から 1,018,000 円のご寄付をいただき、目標としていた 100 万円を達成することができました。

編集作業が終了し、編集委員会は解散となりますが、今後は「北東アジア事典」を会員のみなさまの講義でのサブテキストとして広く活用していただくなどの販売促進活動を継続いたします。「北東アジア事典」は、通常価格 3,150 円ですが、会員には 2,520 円（著者割引価格）でお分けします。編集委員会事務局には在庫分がなくなりましたので、直接国際書院にお申し込いただければ幸いです。

「環日本海学会優秀論文賞」の創設について

2005 年 7 月 30 日第 4 期第 6 回常任理事会において決定された「環日本海学会優秀論文賞」選考規定をもとに、2006 年 8 月 7-21 日第 5 期第 3 回常任理事会において、当該細目規定と応募要領が決定されました。

2006 年 10 月 1 日の金沢での会員総会でもご報告申し上げましたが、2007 年度から「優秀論文賞」の事業を開始しま

す。選考規定に基づく対象論文は、2006 年 6 月から 2007 年 5 月までに刊行されたものが、第 1 回の選考対象となります。

常任理事会・理事会では、本賞の設置により、本学会の若手研究者の育成と本学会の研究水準のいっそうの向上を企図しており、若手研究者のみなさまのよりいっそうの研鑽と、諸兄の若手研究者に対する教育・研究指導のいっそうの充

実を期待しています。

「環日本海学会優秀論文賞」選考規定

1. 本学会は、環日本海研究の一層の発展を図るために「環日本海学会優秀論文賞」を設け、毎年1回、当該期間(前年度6月1日～今年度5月末日)に発表された若手会員の優秀な論文に対して賞状と副賞を贈り、これを顕彰する。
2. 選考対象となる論文は、論文発表時の年齢が40歳未満の若手会員による単著で、次の何れかの条件を満たす論文とする。ただし、大学院在学中の者は、この年齢規定の限りではない。

環日本海学会誌『環日本海研究』掲載論文

上記以外の学術誌(但し、商業誌は除く。また、レフェリー付きのものに限る)に掲載され、学会員の推薦を得た論文

3. 常任理事会は、会員の中から「優秀論文選考委員会」の委員長と若干名の委員を選出し、受賞論文の推薦を依頼する。
4. 常任理事会は、「優秀論文選考委員会」の推薦に基づいて審議を行い、受賞論文を決定する。
5. 受賞者の氏名と論文名は、学会誌『環日本海研究』並びに学会ホームページに掲載し、その栄誉を称える。
6. 「環日本海学会優秀論文賞」の選考にかかわる細目規定は、常任理事会が別途これを定める。

(2005年7月30日第4期第6回常任理事会決定)

「環日本海学会優秀論文賞」の選考にかかわる細目規定・応募要領

1. 「環日本海学会優秀論文賞」の選考対象となる論文を推薦しようとする学会員は、以下の書類一式を学会事務局に提出しなければならない。

(1) 推薦状【別紙所定様式(様式7)】	1部
(2) 論文の現物・コピー	正副計5部
2. 前項の応募書類一式の提出締め切り日は、6月30日とする。
3. 常任理事会は、前項の応募書類一式の提出締め切り日の直前に開催される常任理事会において、会員の中から「優秀論文賞選考委員会」の委員長と若干名の委員を選出するものとする。
4. 「優秀論文賞選考委員会」は、常任理事会の求めに応じて、応募書類一式の提出締め切り日以降、速やかに応募論文を審査し、常任理事会に審議結果を報告しなければならない。
5. 常任理事会は、第2項に定める応募書類一式の提出締め切り日の直後の学術研究大会において、当該年度の「環日本海学会優秀論文賞」を公表・表彰するものとする。
6. 「環日本海学会優秀論文賞」受賞者には、賞状と副賞を贈り、これを顕彰する。

(2006年8月7-21日第5期第3回常任理事会決定)

急募！韓国東北亜経済学会 2007 年年次大会報告者

2007 年 2 月 13 日ソウル大学で開催

本学会と学術交流協定を締結する韓国東北亜経済学会(NEAK)の2007年年次大会について、今年度もNEAKから本学会会員の参加・報告の依頼がありました。期日が迫っておりますので、参加希望の方は至急(遅くとも2007年1月中旬には原稿提出)学会事務局までご連絡ください。

とき 2007年2月13日火曜日

通例、前日に現地入りし、先方学会幹部との学会間交流宴に参加

ところ 韓国・ソウル大学

報告 テーマは本学会で報告可能な対象・領域であれば可
当日の報告は日本語で行なうことも可能(逐次通訳)
事前提出の要旨論文はハングル、日本語、英語が可。

本文が日本語の場合は、ハングルか英語のアブストラクトを求められることがある

原稿 原稿の分量などの仕様詳細は、個別に連絡

派遣人数 2-3名

費用 学会事務局から1名につき50,000円を上限として国際航空運賃を助成する制度があります。(が、本務所属機関の個研費や経費執行が可能な会員には、それらの利用をお願いし、助成制度のご利用をご遠慮いただいております。経費節減にご協力ください)

韓国国内での宿泊費、会場 - ホテルの移動は、NEAK負担

第 12 回学術研究大会報告

第 12 回学術研究大会実行委員会(大会主催校:金沢星稜大学)

実行委員長 沢田勲・事務局長 宋涛

第 12 回学術研究大会が、9 月 30 日(土)、10 月 1 日(日)、金沢星稜大学(石川県金沢市)で開催されました。金沢市での開催は、1995 年の第 1 回大会以来 11 年ぶりの開催でした。

初日は、開会式に続いて、「新しいアジアの潮流と国際的・地域交流の課題」を共通テーマとして、国際シンポジウムが行われました。基調講演者に川勝平太氏(国際日本文化研究センター教授)を迎えて、『「文明交流圏」としての「海洋アジア」』と題して講演していただいた後、5ヶ国6人のパネリストにより意見交換がなされました。パネリストは、金昌男・東亜大教授(韓国)、唱新・福岡県立大教授(中国)、L・ジグジツ(モンゴル特命全権大使)、G・A・オヴェチコ(ロシア参事官)、そして日本は小川雄平(西南学院大教授)、古賀克己(NPO 法人日本海国際交流センター理事長)で、コーディネーターは坂野光俊金沢星稜大教授が務めました。今回の特徴は、モンゴル、ロシアの人たちが初めて参加されたことで、とりわ

け、ジグジツ(モンゴル特命全権大使)は、モンゴルの若者たちが日本への技術研修派遣に意欲を示していることを報告され、今後の北東アジアにおける民間交流に、明るい兆しが見えたことは嬉しい限りです。

また今回の新しい試みとして、国際シンポジウムに続いて、「環日本海学会の回顧と展望」と題して、歴代の学会会長による座談会が開催され、今後の学会の役割や名称問題についての議論が交わされました。とりわけ、山村勝郎・第 2 代会長が、学会の歴史とその役割および今後の方向について熱く語られたのが印象に残りました。

2 日目の分科会は、6 分科会(北東アジアの政治・経済、観光・文化等)に分かれて、21 人の研究者による研究報告が行われ、北東アジアの現状とその将来について、活発な考察と議論が繰り広げられました。なお、2 日目のお昼には総会が開催され、学会設立十周年を記念して出版された「北東アジア事典」が披露されました。

総会・理事会・常任理事会議事**第 5 期第 3 回常任理事会報告**

第 5 期第 3 回常任理事会が、2006 年 8 月 7-21 日の期間、常任理事メーリングリストを活用してオンライン上で開催された。

[1] 学会名称問題について

学会名称に関するアンケート調査 2 回目の調査結果は、2006 年 8 月下旬発行の「つうしん第 27 号」で報告する(内容は 2006 年 7 月 1 日第 5 期第 2 回理事会で紹介したものと同様)とともに、予定回収数を下回ったので、補足調査を実施することを同つうしんで告知する。

同補足調査は、提案名称への意向にしばった調査票(未回答者のみ、「つうしん第 28 号」にも調査票を封入)に改め、同つうしんに同封し実施する(次の締切は 9 月 15 日を予定)。

同補足調査を経た集計結果は、2006 年 9 月 30 日第 5 期第 3 回理事会および同年 10 月 1 日通常会員総会で報告する。

[2] 学会奨励賞について

2006 年 10 月 1 日に開催される 2007 年度通常会員総会において、関連規定および募集要項を紹介する。なお、概要に

ついては、2006 年 8 月下旬発行の「つうしん第 27 号」で会員に周知する。

2005 年 7 月 30 日第 4 期第 6 回常任理事会決定「「環日本海学会優秀論文賞」選考規定」と、2006 年 7 月 1 日第 5 期第 2 回理事会決定「「環日本海学会優秀論文賞」の選考にかかわる細目規定・応募要領」の整合を取るため関連規定および募集要項を修正する。(「つうしん第 28 号」1-2 ページ参照)

[3] 学会財政問題について

山田一隆事務局長から、学会財政の状況について、とりわけ会費滞納者の現状についての報告がなされた。

- 滞納者の除籍はやむをえないが、そのためにも活動の活性化と広報の強化、会員拡大が前提になる
- 当面は、会員増をはかること、そのために名称問題に決着をつけることが必要

[4] 学会の電子化について

2006 年 7 月 1 日第 5 期第 2 回理事会において事務局提案のあった「環日本海学会・個人情報の保護に関する方針」および「環日本海学会メーリングリスト「jsrs_all」利用規程」に

ついて、常任理事会決定を行なった。(「つうしん第 28 号」11-12 ページ参照)

全会員に対して会員名簿記載事項の公開諾否を行い、特に返答がなかった場合は、従前同様公開の意思表示とみなす。

「つうしん第 28 号」同梱の 2006 年 12 月 1 日現在会員名簿から上記対応。

- 情報化については、着手できるところから、すぐに取り掛かるべきだと思う。「つうしん」のメールによる発送などは、すぐにでもできるのではないかと

[5] 編集委員会の新体制について

学会誌編集委員会の 10 月 1 日からの新体制について報告があった。

委員長： 今村弘子 (富山大学) 常任理事 新任

委員： 櫛谷圭司 (新潟大学) 理事 留任

高橋和 (山形大学) 理事 留任

松野周治 (立命館大学) 理事 留任

森岡裕 (富山大学) 新任

林夏生 (富山大学) 新任

顧問： 若月章 (県立新潟女子短期大学) 常任理事・前編集委員長

学会誌編集委員会の新連絡先

富山大学極東地域研究センター・今村研究室内

第 5 期第 3 回理事会報告

第 5 期第 3 回理事会が、9 月 30 日(土)10:00 から、金沢星稜大学にて、常任理事、理事、名誉会員計 17 名が出席して開催された。議題は以下の通り。

[1] 事務局消息

山田一隆事務局長から、2006 年 7 月から当日までの事務局の主な業務内容が報告された。

[2] 学会誌編集委員会

若月章学会誌編集委員長から、「環日本海研究」第 12 号の編集状況報告、内容紹介がなされた。

大会報告の概要とコメントの掲載について、毎号、原稿の督促に時間がかかるため、今年の第 12 回大会から、学会誌掲載用の報告要旨とコメントの原稿を当日回収できるよう、編集委員会を中心に方法論を至急検討する。

学会誌編集委員会の 10 月 1 日からの新体制について報告があった。

委員長： 今村弘子 (富山大学) 常任理事 新任

委員： 櫛谷圭司 (新潟大学) 理事 留任

高橋和 (山形大学) 理事 留任

松野周治 (立命館大学) 理事 留任

森岡裕 (富山大学) 新任

930-8555 富山市五福 3190

電話 076-445-6430 / ファックス 076-445-6419

電子メール imamura@eco.u-toyama.ac.jp

- テーマ別或いは国・地域別の論文・著書のサーベリの適当な方への依頼欄を考えてみては。
- 論文締め切りを早めて論文の質の確保を望みます
- 学会奨励賞が、毎年、「環日本海研究」から選出されるように、論文の quality を高めることも必要と思う
- 「北東アジア事典」の刊行を機に、環日本海研究の動向を紹介する「展望」論文のようなものを掲載することを考えてもいいと思う。「北東アジア事典」を改訂するときにも、展望論文があれば、それを経年的に追いかけることでかなり作業が軽減されると思う。

[6] その他

(1) 次回の予定

第 5 期第 3 回理事会

とき 2006 年 9 月 30 日(土)10:00-12:00

ところ 金沢星稜大学大会議室

議題 第 12 回学術研究大会について / 学会名称問題

について / 学会財政問題について / その他

林夏生 (富山大学)

新任

顧問： 若月章 (県立新潟女子短期大学) 常任理事・前編集委員長

学会誌編集委員会の新連絡先

富山大学極東地域研究センター・今村研究室内

930-8555 富山市五福 3190

電話 076-445-6430 / ファックス 076-445-6419

電子メール imamura@eco.u-toyama.ac.jp

- 優秀論文賞を創設するにあたって、賞の質を確保し、受賞論文が「環日本海研究」から選ばれるよう、「環日本海研究」の投稿論文の質を高める必要がある
- 締切を 1-2 か月早めた方が厳正なレフェリーができるのではないかと
- 韓国東北亜経済学会からの投稿の受け入れからについて先方と協議する必要がある

[3] 10 周年記念出版事業について

佐藤常任理事から、10 周年記念出版事業についての状況報告があった。基金への寄付状況は、9 月 27 日現在、97 名・団体から 993,000 円に上っており、100 万円の目標達成は確実であるとの報告があった。

今後は刊行された後、それをどのように活用していくのかを

議論することが大切であり、大学図書館配架、サブテキストへの活用など、全会員に活用の努力を求めることとした。

- 「事典」であるからには最新の状況をフォローした改訂を定期的に行なっていくことが必要、それが学会の出版事業の中心になってくると思う
- 1刷では正誤表対応とならざるを得なかった箇所も2刷以降では修正されていることがのぞましい

[4] 学会奨励賞

山田一隆事務局長から、学会奨励賞についての状況報告があった。

2005年7月30日第4期第6回常任理事会決定の選考規定に加え、2006年8月7-21日第5期第3回常任理事会決定の細目規定・応募要領が揃ったことで、応募を受け入れる初期設定が整った。

07年の第13回学術研究大会で、第1回の表彰をおこなうべく、会員への賞設置の説明や周知をおこなうこととした。

[5] 学会の電子化について

山田一隆事務局長から、学会の電子化をめぐる状況が報告された。会員メーリングリストの整備状況は、2006年8月7-21日第5期第3回常任理事会で利用規定が決定され、技術的なバグが解消されれば運用に入れる。電子化と併せ、個人情報保護方針の整備が必要であり、会員名簿の開示/秘匿項目を会員自身が選択できる仕組みや学会としての個人情報保護方針が、2006年8月7-21日第5期第3回常任理事会で決定されたことが報告された。

学会誌の電子化については、当面は冊子体をベースとして電子化にも取り組むということになると思われるが、他学会の動向を勘案すると、電子ジャーナルは当然の趨勢となってきた。「環日本海研究」について、電子化の方向を模索することで理事会として意思統一した。

[6] 第12回学術研究大会

澤田勲大会実行委員長から第12回学術研究大会の準備状況について報告がなされた。

1日目第2部「環日本海学会の回顧と展望」については、前後のプログラムの関係もあり、1時間程度とすること、2日目の分科会報告については、20名の応募があったこと、7月半ばには、座長とコメンテータに案内を出す予定であることが報告された。

2007年度会員総会報告

第5期第3回理事会が、10月1日(日)12:00から、金沢星稜大学にて開催された。議題は以下の通り。

[1] 第13回学術研究大会に準備状況について

大会開催校の立命館アジア太平洋大学 林堅太郎会長が

会員総会を1時間半と長めの時間設定になっているので、名称問題についても意見交換できるだろうとの論議があった。

[7] 第13回学術研究大会

林堅太郎会長から第13回学術研究大会の準備状況について報告がなされた。

開催時期のめどとしては2007年12月ごろを検討していること、テーマ、プログラム、共催関係、実行委員会・事務局体制などを現在検討中とのことであった。

[8] 2006年度事業報告・決算報告

山田一隆事務局長から、2006年度事業報告・決算報告(案)が提案され、了承された。(2007年度会員総会議事参照)

[9] 2007年度事業計画・予算

山田一隆事務局長から、2006年度事業報告・決算報告(案)が提案され、了承された。(2007年度会員総会議事参照)

[10] 学会名称問題について

山田一隆事務局長から、学会名称問題について、この間実施している会員アンケートの報告があった。

- アンケートはもう少し長く続けてみてはどうかと思う
- 名称案を1つか2つの案に絞って、1年間ぐらい議論してみてもどうか。
- この回収状況では、金沢の学術研究大会に参加している人の中にも未回答の会員が多くいるはずなので、総会でも呼びかけて回答を促してはどうか

[11] その他

(1) 入会・退会の申請について

山田一隆事務局長から、入会申請のあった者4名、退会申請のあった者3名、会員種別の変更1名、住所不明者6名の紹介があり、入会の申請につき承認された。

(2) 次回の予定

第5期第4回常任理事会

とき 2006年12月ごろ

ところ 京都市内

議題 第13回学術研究大会について/学会名称問題について/学会財政問題について/その他

ら大会の準備状況が報告された。

[2] 2006年度事業報告

山田一隆事務局長から2006年度事業の報告がなされ、了承された。

- (1) 第11回学術研究大会
 とき: 2005年10月1-2日
 ところ: 弘前大学文京町キャンパス
 概要: 1日目 国際シンポジウム「越境広域経営と地域主義」
 2日目 研究大会
- (2) 第12回研究大会の開催準備
 2006年9月30日-10月1日、金沢星稜大学(石川県金沢市)
- (3) 学会誌『環日本海研究』
 第11号の発行と第12号の発行準備
- (4) 韓国東北亜経済学会との学術交流
 2006年2月16-17日にソウル・成均館大学で開催された韓国東北亜経済学会2006年学術大会に本学会会員3名(林堅太郎、龍世祥、山田一隆)を派遣した。
 2005年10月1-2日に弘前大学文京町キャンパスで開催された本学会第11回学術研究大会に韓国東北亜経済学会会員3名(李永連、南成旭、朴貞東)を招聘した。
- (5) 名称問題に関する会員意向調査
 2005年11月 回収数 35 回収率 10.39%
 調査結果は、「つうしん」25号で既報
 2006年5月 回収数 50 回収率 15.29%
 (8月に実施した補足調査分を含む)
 調査結果は、「つうしん」27号で既報
 補足調査を含んだ集計結果は、本総会別添資料参照
- (6) 10周年記念出版事業
 『北東アジア事典—環日本海圏の政治・経済・社会・歴史・文化・環境—』、3,000円で国際書院から刊行した。
- (7) 学会奨励賞の創設
 2005年7月25日第4期第6回常任理事会決定「『環日本海学会優秀論文賞』選考規定」にしたがって、「『環日本海学会優秀論文賞』の選考にかかわる細目規定・応募要領」を決定(2006年8月7-21日第5期第3回常任理事会)。
 2007年度からの推薦受付・表彰開始とする。
- (8) 環日本海学会学生奨励賞の授与
 今年度は該当者なしとした。
- (9) 常任理事会・理事会開催
 2005年10月1日 第5期第1回理事会
 2005年12月17日 第5期第1回常任理事会
 2006年4月23日 第5期第2回常任理事会
- 2006年7月1日 第5期第2回理事会
 2006年8月7-21日 第5期第3回常任理事会
 (メーリングリスト活用)
 2006年9月30日 第5期第3回理事会
- (10) 『環日本海学会つうしん』の発行
 第24号(2005年11月18日発行)
 第25号(2006年2月1日発行)
 第26号(2006年5月15日発行)
 第27号(2006年8月15日発行)
- (11) 会員名簿の発行
 2006年2月 新会員名簿発行
- (12) その他
- ITを駆使した情報発信・会員サービスの検討
 - 個人情報保護に関する取り組み
 「環日本海学会個人情報の保護に関する方針」の決定(2006年8月7-21日第5期第3回常任理事会)。
 - 学会ホームページの充実
 新URLによる運用開始
 Yahoo!JAPAN へのカテゴリ登録
 国立情報学研究所学協会情報発信サービスへの登録
 RSS1.0による新着情報の試験配信
 - 会員メーリングリストの創設
 jsrs_all@mirec.org = 会員数327のうち、170が登録
 - 「環日本海研究」配架図書館数の増加
 県立新潟女子短期大学図書館が新たに配架開始(第1号から)
- [3] 2006年度決算報告【別紙3】
 山田一隆事務局長から2006年度決算の報告がなされた。引き続き、金田一郎監事から2006年度監査報告がなされ、了承された。(次ページ「部門別予算対照表」参照)
- [4] 2007年度事業計画案
 山田一隆事務局長から2006年度事業計画案の提案がなされ、了承された。
- (1) 第12回学術研究大会
 とき: 2005年9月30日-10月1日
 ところ: 金沢星稜大学
 概要: 1日目 国際シンポジウム「新しいアジアの潮流と国際的地域交流の課題」
 2日目 研究大会6分科会で21報告
- (2) 第13回学術研究大会の開催準備

2007年12月1日-2日(予定)、立命館アジア太平洋大学
(大分県別府市)

(3) 学会誌『環日本海研究』

第12号の発行と第13号の準備

(4) 韓国東北亜経済学会との学术交流

本学会会員3名の韓国東北亜経済学会への派遣

韓国東北亜経済学会会員3名の本学会第12回学術研究
大会への招聘

部門別予算対照表

2005年8月16日から2006年8月31日まで

科目・部門	2006年度予算	2006年度決算	備考
収入の部	4,011,782	4,266,411	
経常収入の部	1,805,000	2,258,125	
一般会員会費収入		1,997,000	※1
院生会員会費収入	1,700,000	48,000	※1
賛助会員会費収入		160,000	※2
特別賛助会員会費収入	100,000		※2
事業収入		53,000	※3
受取利息		125	
雑収入	5,000		
前期繰越正味財産の部	2,206,782	2,008,286	
前期繰越正味財産	2,206,782	2,008,286	※4
支出の部	4,011,782	4,266,411	
経常支出の部	2,117,000	2,564,894	
事務局・理事会			※5
事務局費	300,000	249,989	
会議費	100,000		
学会誌発行事業・編集委員会	1,200,000	2,000,840	
大会開催事業	200,000	200,840	
韓国東北亜経済学会交流事業	300,000	50,160	※6、※7
日本学術会議等交流事業	17,000	63,065	
学会学生奨励賞事業		0	
10周年記念事業特別会計		0	
学会奨励賞特別会計		0	
期末正味財産合計の部	1,894,782	1,701,517	
期末正味財産合計	1,894,782	1,701,517	※8

※1 予算段階では、一般と院生の会員種別を合算していた

※2 予算段階では、賛助と特別賛助を合算していた

※3 「環日本海研究」バックナンバーの代金

※4 前年度からの繰入金(05年度→06年度)

※5 予算段階では、「事務局費」「会議費」となっていた

※6 日本→韓国の派遣について、林堅太郎会員、龍世祥会員から渡航に関する助成の辞退があった

※7 韓国→日本の招聘について、第12回大会実行委員会から相当額の助成があった

※8 次年度への繰越金(06年度→07年度)

会計年度について

○ 会則上の会計年度は、前年の10月1日から当年の9月30日までとなっている。

○ 前年度(2005年度)の出納閉鎖は、2005年8月15日であった。

○ 今年度(2006年度)の出納閉鎖は、監査報告等の事務処理に必要な期間を取るため、2006年8月31日とした。

監査報告

環日本海学会2006年度会計(2005年8月16日から2006年8月31日まで)の決算について、決算書類と帳票類を照合精査したところ、正確に処理されていることを認めます。

2006年9月9日

監事 金田一良
監事 判澤純太

(5) 名称問題に関する論議

第30号(2007年7月予定)

(6) 学会奨励賞の授与

(10) 会員名簿の発行

(7) 環日本海学会学生奨励賞の授与

2006年11月 新会員名簿発行

(8) 常任理事会・理事会開催

(11) その他

2006年9月30日 理事会

● ITを駆使した情報発信・会員サービスの検討

2006年12月-2007年1月 常任理事会

● jsrs_all@mirec.org を活用した「環日本海学会つうしん」の電子配信

2006年4月 理事会(または常任理事会)

● 学会誌電子化への課題整理

2006年7月 常任理事会(または理事会)

● 「環日本海研究」配架図書館数の増加

2006年8月-9月 常任理事会

● 会員拡張に関する取り組み

2006年10月6日 理事会

(9) 『環日本海学会つうしん』の発行

[5] 2007年度予算案

第28号(2006年11月予定)

(1) 2007年度予算案

jsrs_all@mirec.org 登録者へは電子配信の開始

山田一隆事務局長から、2007年度予算案が提案され、了

第29号(2007年3-4月予定)

承された。(前ページ「予算表」参照)

予算表

科目・部門		2007年度予算	2006年度決算	備考
収入の部		3,583,017	4,266,411	
経常収入の部		1,881,500	2,258,125	
	一般会員会費収入	1,680,000	1,997,000	
	院生会員会費収入	72,000	48,000	
	賛助会員会費収入	100,000	160,000	
	特別賛助会員会費収入	0	0	
	事業収入	29,500	53,000	配架図書館を1館増やす見当
	受取利息	0	125	
	雑収入	0	0	10周年出版事業特別予算からの繰入
前期繰越正味財産の部		1,701,517	2,008,286	
	前期繰越正味財産	1,701,517	2,008,286	
支出の部		3,383,017	4,266,411	
経常支出の部		1,862,000	2,564,894	
	事務局・理事会	300,000	249,989	おもに「つうしん」「環日本海研究」の通信運搬費
	学会誌発行事業・編集委員会	1,000,000	2,000,840	「環日本海研究」の印刷製本費、編集委員会の活動費
	大会開催事業	200,000	200,840	大会主催校への支援資金
	韓国東北亜経済学会交流事業	300,000	50,160	3名ずつの派遣交流経費
	日本学術会議等交流事業	62,000	63,065	北東アジア研究交流ネットワーク、日本学術会議、地域研究学会連絡協議会加盟分担金
	学会学生奨励賞事業	0	0	
	10周年記念事業特別会計	0	0	
	学会奨励賞特別会計	0	0	
期末正味財産合計の部		1,521,017	1,701,517	
	期末正味財産合計	1,521,017	1,701,517	

(2) 会費額改訂の検討について

多賀秀敏名誉会員・理事から、会費額改訂の検討に関する提案が動議され、了承された。

- 2008年度から会費の額を改訂する
- 改定額は、直近の常任理事会で、慎重に審議し、その結果を速やかに会員に告知し、2008年度から適用する。

以上を本総会で決議する。

提案理由

一方で両監事から理事会総会において近い将来本学会財政は危機的状态に陥る旨指摘があった。他方、10周年記念事業として、事典も出版され、学会奨励賞も設けられ本大会では分科会も6分科会が持たれた。こうした学会の活動充実の動きを支えるために提案す

る。

[6] 学会名称問題について

山田一隆事務局長から、この間の学会名称問題に関する会員アンケート調査結果およびそれを踏まえた議論経過が紹介された。

会員アンケート調査については、継続して実施することとし、会場出席者のうち未回答の会員に協力を呼びかけた。当該アンケートの回答がおおむね過半数を超えた段階で、総会に名称候補を提案することを目途に、継続した論議を喚起することが了承された。

会員情報

会員著書近刊のおしらせ

本欄は、学会事務局に会員から寄せられた新刊情報について、書誌情報として提供するものです。

中村信吾、多賀秀敏、柑本英雄編著 『サブリージョンから読み解 EU・東アジア共同体：欧州北海地域と北東アジアの越境広域ランドデザイン比較』

【自薦】

単行本：168ページ / 出版社：弘前大学出版会 / 出版年月：2006年09月 / ISBN：4902774143 / 1,470円

新入会員 4名

種別	氏名	所属	推薦者
一般	星野 三喜夫	新潟産業大学経済学部	推薦者：詹秀娟、判澤純太
一般	辻 久子	財団法人環日本海経済研究所	推薦者：若月章、権寧俊
一般	汪 正仁	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋マネジメント学部	推薦者：林堅太郎、松野周治
院生	縄倉 晶雄	日本大学大学院法学研究科	推薦者：孔義植、佐渡友哲

2006年9月30日 第5期第3回理事会承認

退会者 3名

佐々木 洋	加藤 章	田中 史郎
-------	------	-------

2006年9月30日 第5期第3回理事会報告

住所不明者 6名

学会事務局では、日常的に会員のみなさまの連絡先・所属等の変更・更新を受け付けており、その追跡にも注力しておりますが、残念ながら、現在、以下の会員の連絡先が学会事務局で把握できておりません。会員のみなさまの中で最新の連絡先をご存知でしたら、学会事務局までご連絡いただければ幸いです。

蔡 承完	鈴木 英司	Valentina Grishina	鄭 鉉錫	綱 泰徳
鄭 光敏				

事務局からのおしらせ

学会名称に関するアンケート調査について

上記アンケート調査の回答を引き続き受け付けます。準備の都合上、調査票は前回発送させていただいた古い様式

(締切が入っているなど)ですが、とくに締切を設けず、随時届く回投票を定期的に集計し、会員のみなさまの意向を集約していきたいと考えています。まだ、ご回答いただいていない会員のみなさまは、ぜひご回答ください。同封調査票は封

筒・郵送料会員負担でご返送ください。学会ホームページから様式をダウンロードしていただき、メールの添付ファイルでご回答いただくことも可能です。

会費納付・学会財政・会員拡張について

[1] 会員の会費納付状況・学会則第6条について

参考：環日本海学会会則・第6条「本会を退会しようとする者は、書面をもって退会を本会に通告すれば退会することができる。会費を2年間滞納した者は、理事会において承認の上、退会とみなす。」

- 会費滞納については、学会則第6条を厳密に適用すれば、一般会員の場合、14,000円滞納(2年)で退会処分となる。
- しかし、現行では4年滞納(一般会員の場合、28,000円以上)で、学会誌の送付を停止し、「つうしん」の発送のみとする暫定措置をとっている。
- 「滞納者」に対しては、2005年12月17日第5期第1回常任理事会決定により、滞納の督促および支払いの猶予や倍額支払による精算の提案などの未納額低減の努力を継続している。
- 学会則第6条の厳格適用による退会処分については、具体的な手続が規定されていない。

この「滞納者」問題と学会則第6条の適用に関して、常任理事会・理事会でも検討を重ねています。会員のみなさまからもご意見をご教示いただければ幸いです。

[2] 会費納付のお願い

郵便振替口座 00990-3-117008

環日本海学会

つうしん本号に同封の会費納付のご案内で金額(過年度未納分がある方は併せてご請求申し上げます)をお確かめの上、同封の郵便振替払込票をご利用ください。なお、

払込手数料は会員各位にご負担をお願いしています。ご了承ください。

年会費	一般	7,000円
	院生	3,000円
	賛助	20,000円
	特別賛助	100,000円

[3] 会員拡張の重要性

このところ会員数は、横ばいないし漸減の傾向にあり、学会組織として、本学会をとおした学究・交流活動を促進し、発展させていく観点から、また、学会経営の財政的安定化を図る観点から、新入会員の勧誘につき、会員のみなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

学会事務局の試算では、あと定期的に会費を納付する会員が60名増えないと、学会財政は近い将来(3-5年)、繰越金がゼロとなり、破綻してしまいます。また、会員拡張ができない場合は、現在の会員のみなさまからのご負担をさらをお願いする(会費を値上げするなど)ことになってしまいます。

学会事務局では、会員のみなさまの積極的な新入会員獲得活動をサポートするため、学会のご案内リーフレットを作成しました。つうしん本号に3部ずつ同封させていただきまので、せいぜいご活用いただければ幸いです。また、本リーフレットは学会ホームページからもダウンロードできますので、ご活用いただければ幸いです。

学会の情報化について

[1] 学会誌の電子アーカイブ事業について

独立行政法人科学技術振興機構(JST)は、学会誌をホームページを介してインターネットで電子配信する電子ジャーナルアーカイブ事業「J-Stage」を推進しています。他学会でも着実に、学会誌や大会予稿集のペーパーレス化が進んでおり、国際学会としての本学会においても、学会誌が世界中に電子配信され、会員の研究成果が広く知れるところとなり、本学会の発展に寄与できるものが電子ジャーナルアーカイブ事業であると考えています。本学会の学会誌「環日本海研究」は現在までに11号を重ねており、研究成果の蓄積を考えても、電子ジャーナルアーカイブ化を検討するのに時宜を得て

いると考えています。ただし、学会誌の電子ジャーナル化には、著作権、版權といった学会と執筆者等との間における知的財産権の整理が必要となってくると思います。

2006年4月23日の第5期第2回常任理事会では、

- J-Stageに乗ることは基本的に推進されるべきである。
- 学会誌のデジタル化を前提とした権利関係の整理は、編集委員会でも検討が必要である。

との趣旨の論議があり、第5期のうちに、学会誌のデジタル化に道筋をつけられるように今後も具体的に検討していくこととなりました。

電子ジャーナルアーカイブ化の方法論としては、

- 本学会ホームページに pdf 形式で掲載する自前の方法
 - JST が実施する J-Stage 事業に参加する方法
- などが考えられます。また、想定される課題としては、
- バックナンバー執筆者と学会との間で、電子配信に関する覚書(了承)を取り交わす必要があると考えられる。
 - 今後発刊される学会誌については、電子配信を前提とした投稿を了承してもらう必要があると思われる。

などが考えられます。

今後とも、編集委員会と連携して、電子ジャーナルアーカイブ化に向けた課題整理を行ない、後日、会員のみなさまにも詳細をご提案申し上げたいと考えています。

本件につきまして、幅広く会員のみなさまのご意見をいただければ幸いです。メールで学会事務局までお寄せいただければ幸いです。

[2] 学会員メーリングリストの運用について

学会事務局では、会員のみなさまの情報交流の機動性を高めるべく、学会員の一斉同報メールシステムの構築を準備してきました。運用にかかる制度整備については、2006 年 8 月 7-21 日第 5 期第 3 回常任理事会において、「環日本海学会メーリングリスト「jsrs_all」利用規程」が決定され、その後も技術的なバグの解消に向けて調整を進めてきました。このたび、おおむね技術的な問題も解消されましたので、運用を開始します。

環日本海学会メーリングリスト jsrs_all@mirec.org

登録メールアドレスは、現在「会員名簿」に登録されているメールアドレスを基本としています。現在の登録者数は170で、全会員のおよそ半数です。メールアドレスを登録いただけない会員のみなさまには、これを機会にメールアドレスの登録をご検討いただければ幸いです。ご連絡は学会事務局までお願いいたします。

環日本海学会メーリングリスト「jsrs_all」利用規程

(目的・利用者)

第1条 環日本海学会メーリングリスト(以下、「jsrs_all」という)は、環日本海学会会員相互の日本海および日本海周辺諸国・地域に関連する研究交流や情報交換のため開設されたもので、環日本海学会会員のうち、電子メールアドレスを申告した会員は、特段の申し出がない限り、自動的に jsrs_all に登録される。

(利用者責任)

第2条 参加者が jsrs_all に情報を流す場合は、その内容の正確さについて細心の注意を払う義務を負う。また、jsrs_all 上に流れた情報を利用する場合は、利用者がその結果に関する第一義的な責任を負う。

(禁止事項)

第3条 jsrs_all において、以下のような行為を禁止する。

- (1) 他人を誹謗・中傷したり、プライバシーを侵害する情報を投稿すること、また jsrs_all に流れた情報に関し、投稿者や関係者を誹謗・中傷すること
- (2) 公序良俗に反する情報、選挙運動や宗教の布教に関する情報、知的財産権を侵害するおそれのある情報を投稿すること
- (3) いわゆる「チェイン・メール」または「チェイン・メール」化するおそれのある情報を投稿すること
- (4) 受信先サーバおよびそれに経路となるインターネット上のトラフィックに過大な負荷や損害をかけるおそれのある情報等を投稿すること
- (5) その他 jsrs_all の趣旨にふさわしくない情報を投稿すること

(引用)

第4条 jsrs_all に投稿された内容を引用しようとする者は、著作権法に従った正当な引用の要件を満たさなければならない。また、公正な慣行から引用と認められる範囲を超えて投稿の内容を利用、転載する場合は事前に投稿者の了承を得なければならない。

(注意喚起および除名処分)

第5条 以上の規定に違反した場合は、管理者から注意を促すとともに、悪質な違反者については jsrs_all から除名する場合がある。

(管理体制)

第6条 jsrs_all の情報・システム管理者は、本学会事務局長とする。

2 本学会事務局長は、jsrs_all の情報・システム管理にあたり、必要に応じて、会員に意見を求めることができる。

(本規程の改廃)

第7条 本規程の改廃は、会員総会の議決を経るものとする。

(附則)

本規程は、2006 年 10 月 1 日より施行する。

(2006 年 8 月 7-21 日第 5 期第 3 回常任理事会)

環日本海学会メーリングリスト「jsrs_all」利用ガイドライン

[1] 表題(subject)

- jsrs_all に投稿する場合、日本語以外の言語を標準とするメールサーバ、メールソフトを使用している会員があることに配慮し、表題(subject)は、アスキー文字(半角英数字)を使用することが望ましい。
- 多言語対応メールソフトであっても、表題(subject)部分は、メールサーバやメールソフトの多言語対応がサポートできない場合も少なくない。

【例】×:「開設宣言」、○:Opening Statement of the jsrs_all、
○:kaishitsu sengen

[2] 差出人(from)

- jsrs_all に投稿する場合、日本語以外の言語を標準とするメールサーバ、メールソフトを使用している会員があることに配慮し、差出人(from)は、アスキー文字(半角英数字)を使用することが望ましい。

【例】×：山田一隆、○：YAMADA, KAZutaka

- 差出人(from)の設定は、各メールソフト上で変更可能である。

[3] 本文(text, main)

- 最近のメールソフトは、多言語対応になっているものがほとんどであるので、本文(text, main)2バイト文字(全角)を使用してもよい。
- Outlook Expressをhtmlメール(書式付メール)で使用しているユーザが発信したメールに多く見られる文字化け要因として、1バイト(半角)カタカナの使用があげられる。書式付メールの編集画面では、カタカナの全角・半角の判別が難しいので十分に留意されたい。
- 丸囲み数字(、 、 、 など)やローマ数字(、 、 、 など)などは、機種依存文字と呼ばれており、メールでの使用は原則禁止されている。機種依存文字を含むメールは、日本語以外の言語を標準とするメールソフトで文字化けするほか、同じ日本語版OSであっても、Windows系列とMacintosh系列相互間でも文字化けを生じる。
- ほとんど改行せずに本文を書くと、メールサーバ側で、一定の桁数以上(日本語横書きだと右側)の文字を削除してしまうことがある。半角70-80字を目安に適宜改行マーク(「enter」キー)を入力されたい。

[4] 署名(signature)

- 本文の文末に添付されるので、2バイト文字のみで記述してもよい。ただし、メールアドレスに2バイト文字が混在するなどの署名も散見するので、jsrs_all投稿以前のネチケット基本の問題として再確認を促したい。

(2006年8月7-21日第5期第3回常任理事会)

[3] 環日本海学会の「個人情報保護方針」の策定について

2005年4月の「個人情報保護法」の施行以降、諸方面で個人情報の取り扱いについて論議がなされています。学術団体においても、個人情報保護方針(プライバシーポリシー)を策定するところが多くなってきました。本学会でも、常任理事会・理事会では、会員名簿やメーリングリスト編成の原データとなる会員個人情報の取り扱いについて、基本的な考え方を明示しておく必要があるとの認識を共有し(2006年7月1日第5期第2回理事会)、2006年8月7-21日第5期第3回常任理事会において、「環日本海学会・個人情報の保護に関する方針」を決定しました。

環日本海学会・個人情報の保護に関する方針

環日本海学会は、個人情報の保護に関する法令の規定等を踏まえ、当会の保有する個人情報の保護に関する方針を次のとおり定める。

1. 個人情報の保護に関する法令等を遵守します。

2. 必要な個人情報は適正な手段で入手します。
3. 個人情報の利用目的を通知又は公表します。
4. 個人情報を目的外に利用しません。
5. 法令に定める場合を除き、個人情報を本人の同意を得ることなく第三者に提供しません。
6. 個人情報の正確性を保ち、安全に管理します。
7. 個人情報の開示請求等に適正に対応します。
8. 個人情報にかかる苦情処理等に適切に取り組みます。

利用目的

個人情報の取り扱いについて、環日本海学会は、会員の「個人情報」を、学術研究大会・総会、理事会・常任理事会等の開催通知、機関誌等の送付、会員名簿の作成、会費管理など、本会の事業活動のために利用し、それ以外の目的で利用することは一切ございません。「個人情報の保護に関する方針」に同意いただけない場合、また、お届けいただいた個人情報の開示、訂正等のお問い合わせは、学会事務局までお願いします。

本方針施行前後における移行措置

本方針施行以前に取得・収集した個人情報の取り扱いについて、会員名簿の作成を除く利用については、特段の異議申し立てがない場合には、本方針施行後も、従前の慣習を踏まえつつ利用するものとする。なお、会員名簿の作成については、環日本海学会会員登録情報変更申込書(様式6)に準じた様式を用い、すべての会員に対し、氏名、所属、専門領域を除く各々の個人情報の会員名簿における開示の諾否を問い、期限内に特段の異議申し立てがない場合には、当該個人情報の会員名簿における開示について承諾したものとみなす。

(2006年8月7-21日第5期第3回常任理事会)

[4] 「環日本海学会つうしん」の電子配信について

学会事務局に電子メールアドレスをお知らせいただいている会員のみなさまには、これまで紙媒体として郵送してしました「環日本海学会つうしん」の配信を、次号(第29号)から環日本海学会メーリングリストjsrs_all@mirec.orgを活用した電子配信(pdf形式)に切り替えさせていただくこととしました。

電子配信への切り替えによって、事務局の印刷・郵送経費および手間の軽減もさることながら、発行後すぐに配信するため、紙媒体を郵送するよりも迅速にお手元に届けることができますようになります。

学会事務局に電子メールアドレスをお知らせいただいている会員のみなさまは、次号より自動的に電子配信に切り替わります(とくにご連絡は不要です)。電子メールアドレスをご登録の会員の方で、従前同様、紙媒体の郵送をご希望される方は学会事務局までご連絡ください。

学会誌「環日本海研究」発送・「環日本海学会つうしん第28号」および会員名簿の発行の遅延について

学会事務局から発送予定の上記書類等について、当初2006年11月ごろの発送を見込んでいましたが、諸事情により約2ヶ月程度

準備が遅くなってしまいました。会員諸兄からお問い合わせをいただいたこともあり、遅くなってしまい、申し訳ございませんでした。

